

次世代哲学研究会 第2回会合

哲学教育について何が語られてきたか What have they told about teaching philosophy?

2017/2/22 京都大学芝蘭会館別館



渡邊浩一 (大阪経済法科大学)

Koichi WATANABE / Osaka University of Economics and Law

1

問題とアプローチ Problem and Approach

• 問題[Problem]

哲学教育の活況の一方で、議論の積み上げは低調。

哲学教育についての書誌[bibliography]を作成し、先行研究についての概観する。

• アプローチ[Approach]

国立情報学研究所(NII)のCiNii(NII学術情報ナビゲータ)などを活用。

書籍・学位論文[books]7件、雑誌特集[features]12件、

論文・記事・ノート[articles]136件に即して、日本での議論の特徴と課題を点描。

2

出版年	書籍・学位論文	雑誌特集	論文・記事・ノート
1957	1		1
1966			1
1973			1
1976			1
1979			1
1981		1	12
1985			1
1990			2
1991			1
1995	1		1
1996			3
1997			2
1998			3
1999			3
2000	1		3
2001		2	11

出版年	書籍・学位論文	雑誌特集	論文・記事・ノート
2002			4
2003	1		4
2004			2
2005		1	4
2006		2	10
2007		2	6
2008			1
2009			4
2010			4
2011		2	14
2012			7
2013		2	10
2014	1		8
2015	1		7
2016	1		4
計	7	12	136

1. 原理：哲学教育とは何か

Principle: What is the teaching philosophy?

① 自分の哲学理論や研究対象としている哲学者の教育論を語る傾向

⇔ 藤田[Fujita](2014)の指摘「誰が、誰に、いつ、どこで哲学を教えるのか」

② 最大公約数：自分で考えること[Thinking for oneself]

ジルソン[Gilson](1957) = 古典的 / 大坪[Otsubo](1981) = 先駆的

③ 「対話」と「テキスト」の対立[Dialogue Vs Text] ?

中畑[Nakahata](2001) ; 金山[Kanayama](2011)など、やや防御的 ?

2. 方法：どのような工夫がなされているか

Method: How do they teach?

① 講義から対話へ[From lecture to dialogue] ?

昔ながらの講義・川原[Kawahara](1981) / 対話の先駆的導入・池永[Ikenaga](1981)

② 新しい授業方法の展開

クリティカル・シンキング[*critical thinking*]の興隆：伊勢田[Iseda](2007)ほか
ピア・ラーニング[*peer learning*]の試み：木村[Kimura](2014)；木村[Kimura](2016)

③ ICTの活用

私立大学情報教育協会[Japan Universities Association for Computer Education][編](2011)

3. 対象：誰を相手に行うのか

Opponent: Who do they teach?

① 高等教育[Higher education]

：一般教育[*general education*] > 専門教育[*special education*]

教養[*culture*]重視／理想社[編][Risosha](1981)；宮本・松井[Miyamoto&Matsui](1981)
個別のニーズに対応／名古屋大学高等教育研究センター[編](2011)

[Center for the Studies of Higher Education, Nagoya University]

他：法哲学／日本法哲学会[編][Japan Association of Legal Philosophy](2007)

教員養成[*teachers college*]／倉本[Kuramoto](2006)教員養成系など

② 初等中等教育[Primary and secondary education]

：P4C[*Philosophy for Children*]などを追い風に

高校「倫理[*Ethics*]」／沢田[Sawada](1995)から直江[Naoe](2015)へ

子どもの哲学[P4C]／西野[Nishino](1997)から山田[Yamada](2013)；河野[Kono](2014)へ

4. 比較：諸外国ではどうなっているか

Comparison: How do they teach abroad?

① フランス[France]の哲学教育の思想史的研究が充実

代表的研究者：

白井成[S.Shirai](1973)；山口信[N.Yamaguchi](1999a)；西山[Nishiyama](2013)

② アメリカ[USA]の事例は限定的

宇藤[Udo](1995)Teaching Philosophy／久保田[Kubota](2009)APA／福井[Fukui](2015)P4C

③ その他、欧州[Europe]各国、アジア[Asia]諸国の事例は僅少

シュペネマン[Spennemann](1985)ドイツ[Germany]

／カルタフチャン・ペトロフ(1966)ロシア[Russia]

／王・香川[Wang&Kagawa](1997)中国[China]

7

5. 課題：何が求められているか

Tasks: What should we do?

① カリキュラム[curriculum]についての議論が限定的

武田[Takeda](1981)；山口信[N.Yamaguchi]他(2002)など例外はあるが、
哲学関連科目の相互のつながり、学士課程教育の中での位置づけなどに
踏み込んだ議論がみられない

② 評価[evaluation](・質保証[quality assurance])についての議論が限定的

佐々木[Sasaki](1996)授業評価；村田邦[K.Murata](1996)；森[Mori](2001)

③ 「哲学教育」の研究体制

「学会[association]」や「専門誌[journal]」は必要か？

(cf. 永井[Nagai](2003)；久保田[Kubota](2009))

8

ご清聴ありがとうございました。
Thank you for listening!



本研究は、科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）「リベラルアーツとしての哲学の歴史的・批判的研究」（16H07358）の補助に基づくものです。